

転ばない、転ばせないご提案

入院生活をする病院の環境は、住み慣れた家庭とは異なります。病气やけがによる体力や運動機能の低下が加わり、思いもかけない転倒転落事故が起こることが少なくありません。当病院では安全で快適な入院生活を送っていただくように努力をしておりますが、さらに安全性を高めるために患者様、ご家族の皆様のご協力をお願いします。ご不明な点がございましたら遠慮なくスタッフへおたずねください。



①入院時確認すること

- * ベッドの高さは座って足がつく高さに調整します。
- * ベッド上で立ったり、ベッドから身を乗り出して物をとろうとしないでください。
- * ナースコールの位置を確かめてください。
- * ベッドとベッド柵の操作方法を確かめてください。
- * トイレのナースコールや手すりを確認しましょう。
- * 履物は、かかとが包まれていて、歩行時に脱げにくいものをお選びください。(入院のご案内参照)

<お子様の場合>

- * お子様の体格や活動に応じてベッドを選択します。
- * ご家族在室時もベッド柵を上まで上げてください。

②ベッドの周囲

- * オーバーテーブル、床頭台などにつかまったりすると不安定なので危険です。また、コード類は引っかかると転倒する可能性があるためまとめさせていただきます。

③点滴を行っている時

- * 点滴台を押しながら歩く時は、キャスターがついているので、支えにするとバランスを崩すことがあり危険です。

④夜間トイレに行く時

- * 消灯前に一度トイレを済ませてください。
- * 周りが暗いので遠慮なく看護師にお知らせください。
- * 尿器の設置、使用をすることもできます。

⑤車椅子について

- * 車椅子に乗り降りする時は、必ずブレーキをかけましょう。フットプレートをまたいでの乗り降りは危険です。
- * 車椅子には深く座りましょう。
- * 足元のフットプレートに立つと危険です。



⑥入浴について

- * 入室時にはナースコールの位置を確かめてください。
- * 水がこぼれていないか確認してください。床がぬれているのを発見したらお知らせください。

⑦血圧の薬、睡眠薬、精神安定剤、解熱鎮痛剤、麻薬を服用している時

- * 薬の影響でふらつく危険があるので注意して動いてください。
- * ふらつく時は看護師が介助しますので、ナースコールでお呼びください。

⑧運動

- * ベッド上での生活が長くなると足の筋力が予想以上に低下します。ベッド上で足のゆび、足首、膝の運動を行いましょう。運動内容は看護師にご相談ください。

<ご家族様へ>

- * 入院中のお荷物は最小限にし、床に置かず、ベッド周囲の整理整頓にご協力をお願いします。
- * 患者様の転倒・転落防止のために、ご家族のご協力が必要です。
- * 安全な環境を提供できるように必要時、センサー類の使用をご提示します。ご理解ご協力をお願いします。



病棟内の施設の確認を行いましょう。

産業医科大学病院